

UCIAニュース

発行　宇治市国際交流協会
事務局　〒611－8501　宇治市宇治琵琶33 宇治市役所秘書広報課内
電　話　0774－22－3141（内線2058）　FAX　20－8776
Eメール hishokohoka@city.uji.kyoto.jp

第　99　号
令和8年（2026年）1月

119番通報訓練ー外国人防災リーダー養成研修ー

宇治市国際交流協会
理事 川野　智



宇治市国際交流協会では、大規模災害時への対応の一環として第２回目の「外国人防災リーダー」の養成研修を令和７年９月13日（土）に実施しました。この外国人防災リーダーは大規模災害時に市内在住外国人や本市に訪問されている外国人に様々な支援活動をしていただくリーダーです。

研修には、日本語教室の受講者21名と７名の日本語教室指導者のほか協会関係者４名が参加しました。参加者の国籍は、ベトナム、オーストラリア、スリランカ、ネパールなどで国際色豊かなものとなりました。

今回の研修では、宇治市中消防署に全面的な支援をしていただき多くの隊員の方々に指導していただきました。研修では、119番通報訓練、消火器取扱訓練の他にも消防車や救急車内部の見学などを行い、普段なかなか経験できない貴重な内容となりました。

119番通報訓練では、実際に消防司令室の中で通報の仕方を消防署隊員から英語などで教えていただきました。そして通報された緊急連絡が消防司令室で受令後、どのような手順で通報先住所へ消防車や救急車が駆けつけるのかを司令モニターを見て、教えていただきました。参加された皆さんは、初めて見る司令室モニターを興味深く見学されていました。

消防車や救急車の見学では、普段見ることのできない内部の様子を驚きの眼差しで見ておられました。参加者には小さな子ども連れの方もおられて、その子どもさんにデモ用の消防服を着せていただき、親子とも喜んでおられました。

また、消火器取扱訓練では、練習用の消火器を実際に使っての訓練を全員で取り組みました。

研修の最後には、宇治市国際交流協会から今後、防災リーダーとして活躍していただきたいとの説明があり、受講者からは、大規模災害時には防災リーダーとして活動していきたいとの言葉をいただきました。





カムループスに夢中！

カムループス市・トンプソンリバーズ大学
令和７年度市民留学生 山田　果歩



４月27日、日本から約10時間のフライトを経て、カムループス空港に到着しました。空港の外に出た瞬間、カムループスの雄大な景色に私は心を奪われました。さらに、４月下旬にもかかわらず18時半でも明るく、時間の感覚が不思議に思えました。

初めての海外長期滞在に不安もありましたが、ホストマザーとの暮らしや大学生活を通して少しずつ英語での生活にも慣れていきました。トンプソンリバーズ大学では、英語だけでなくカナダの文化や社会問題も学び、様々な考え方に触れました。２週間に１度のプレゼンテーションに最初は戸惑いましたが、回を重ねるうちに自分の意見を英語で自信をもって発表できるようになり、人前で伝える力も身に付きました。週末には、乗馬やジップラインなどで自然を堪能したり、都市へ小旅行に出かけたりしました。

また、ホストマザーは、手作りの家庭料理を通してカナダの暮らしを教えてくれ、ティータイムには日々の出来事を語り合ったほか、互いの文化を分かち合いました。拙い私の英語も優しく受け止め、辛い時には励まし、支えてくれた彼女とは今でも連絡を取り合っています。そんな温かい日々と豊かな自然に囲まれたカムループスに、私はすっかり虜になりました。

この留学で得た学びと出会いは、一生の宝物です。宇治市、カムループス市、大学関係者の皆様をはじめ、ご支援くださった皆様に感謝申し上げ、両市の末永い友好を願います。





全力疾走したカムループス生活

カムループス市・トンプソンリバーズ大学
令和７年度市民留学生 小永井　萌



2025年４月、カムループスに飛び立った私は、緊張と大きな期待で胸がいっぱいでした。空港で対面したホストマザーとルームメイトはとにかく明るくて常に笑っていました。私は２人のホストファミリーとメキシコ人のルームメイト、韓国人の元留学生と２匹の犬と１匹の猫がいて、とても賑やかな家庭でした。トンプソンリバーズ大学には毎日通い、テスト前には休日も大学に集まりプレゼンの練習を行うなど、毎日勉強に夢中になっていました。また、家に帰ると食





卓を囲んで一日の出来事を振り返り、時に悩み事の相談をし、授業で悔しい思いをした日には力強く励ましてもらうこともありました。そんなホストファミリーのお陰で、一人で悩むことが多かった私の性格は、周りの人たちを頼り、前向きになんでも頑張れる性格に変わっていったのを実感しています。留学生活の一番の思い出は私の誕生日です。大学から帰ると食卓にはカレーや蕎麦、そして手作りケーキが並んでおり、感動して泣いてしまうほど嬉しかったのを覚えています。一瞬で終わってしまった留学生活でしたが、カムループスで沢山愛されてできた数え切れない思い出と、ホストファミリーからもらった素敵な言葉たちを胸に、これから社会で活躍できる人間に成長していきたいです。

2025年度語学講座

宇治市国際交流協会　理事　奥村　幸子

英会話　中級



今年度の語学講座は、11月5日～12月3日の夜7時から8時までの5回コースで、英語講座の入門コース、初級コース、中級コースの3つのレベルで開催されました。入門コースの講師はアシャンティ＝ロビンソン氏。家族構成の会話から始まり、順序の言い方 first、after、finally などを使って自身の一日の行動を生徒同士ペアになって話し合い、その中に講師が入って盛り上げました。スキルアップのために、一日の自分の行動を作文することを勧められていました。初級コースの講師はカリム＝ヴィアーク氏。動詞の現在形、過去形の説明から始まり、それを使って作文し生徒同士がチームに分かれて会話、講師が入って会話を盛り上げました。又、配られたプリントを前に出て交代で読み、他の生徒はそれをリスニングしました。人前で英語を発音するのは勇気のいることですが、皆さん頑張りました。中級クラス講師はサミュエル＝アサレ氏。白板に書かれた文章の間違い探しや、自分の休日のプランを発表したり、英文法の説明を受けたり、リスニングの聞き取りの後、回答発表等々、入門、初級コースより少しレベルアップした中級クラスのレッスンでした。

「英語講座を受けることがあっても英文法を教わる機会は少ないので勉強になりました。」と喜んでいただけました。どのクラスも和気あいあいとした楽しそうな雰囲気の中での英語講座でした。





「日本語支援ボランティア養成講座」を開催

令和７年度の「日本語学習支援ボランティア養成講座」が、昨年とほぼ同様の内容で、今年も 10 月末から 11 月中旬にかけて５回実施されました。今年は、講座案内のチラシを見て、技能実習生を抱えている会社の担当者からの勘違いの申し込みで、２人の技能実習生が申し込んでくれましたが、無理だろうと判断、日本人の申込者が少なくなりました。でも、将来的には、彼らが日本語に堪能になって、同じ国から来ている新人の技能実習生の日本語学習のサポートに従事してくれたら、日本社会はもっと多文化共生に満ちあふれた社会に発展するのではないかと思っています。





最終の５回目の京都府国際センターの近藤氏の講座は、とても興味深い内容でした。若年労働者人口が減少する現在、日本の経済社会を支えるために多様な国々や環境から来ている技能実習生がいます。彼らに長く日本に滞在し、貢献して貰うために、帯同家族の入国が認められています。日本人と同様の社会サービスを受けながら、私達日本人が誇る安心、安全の国、誰もが認める社会的規範、美しい心、親切、日本で育った特定技能実習生の子どもたちが、平和で、希望に満ちあふれた日本を創造してくれることを願って、日本語教室に関わっています。（I.K.）

雑観雑感

私は宇治に来て二年目の外国人で日本での生活について話そうと思う。実は、宇治市に来る前は全然聞いたことがなかったが、今では宇治市の古き良き観光地（世界遺産もあることにびっくりした）と人々のやさしさを感じた。ちなみに、抹茶も段々好きになっている。

宇治だけでなく全国でもいいことがある。どんな都道府県でも、自分の国を尊重している人が多く、いろんな風習を保守し、日本人として日本に対しての大事さがはっきり見えると私は思っている。

しかし、辛い時もある。外国人として差別を受け、日本語が通じない時もあり、家族からすごく離れていることも気になっている。その時はイギリスと日本を比べることで安心できる。イギリスでは家賃が高くて、安全性が低いといった問題も未だにある。それに引き換え、日本では一人暮らしができて、スリや暴力の心配はないと感じる。それに、日本語教室で日本語が通じるように先生と努力している。一人で病院に行けること、自然に他人に話しかけることもできるようになってきたんだ。

今年で日本にいる二年目ぐらいを迎えて、いろんなことがありがたくなったのだ。日本語教室、同僚、出会った友達も全部…ありがたく思っている。（J.H.）